
翼

かあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

翼

【コード】

N0751K

【作者名】

かあ

【あらすじ】

朝おきると翼が生えていた……

(前書き)

意味不明な話です

ある日僕は突然天使になった……

ある朝目覚めると翼が生えていた。

意外にもおかしすぎて驚くこともできない。

鏡でその翼をみると翼と言うよりは無数の白い手が重なりあってできていた。

それはとても不気味だった。

試しに家を出た。誰かが見たらどう反応するかみたかったからだ。

老人が歩いていて。

わざとらしく目の前を歩いた。

しかし全く反応しないどころが自分の存在にすら気づいていないようだった。

街中でも誰も気づいて貰えず自分はこれが全部夢だと思った。

そこでビルの屋上へ行き試しに飛び降りてみようとした。

しかしなぜだが体が動かなくなった。

その時目の前に老婆が現れた。

その老婆は口を開いた。

「ここで死んではいけない。」

「これは夢だろ？」

と問い返す。

「これは現実である」

と老婆は即答した。そして

「あなたの翼は死んでいった者の固まりである」と老婆がいった。

だから手でできた翼なのかと納得した。

「その翼が生えている限り死んではいけない。」

と言って老婆は消えていった。

しかしその後ビルから飛び降りてしまった。

死んでからわかった。

僕はあの翼の一部になるんだと

シリシリ

激しいアラームが聞こえた。

何故かそこは自分のベッドの上。

全ては夢だった。

うれしくて涙が出た。

その時違和感を感じた。

そう自分は翼の一部になっていた

END

(後書き)

ある意味失敗作

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0751k/>

翼

2010年10月13日20時38分発行